

# 資料室 ニュース Vol. 6

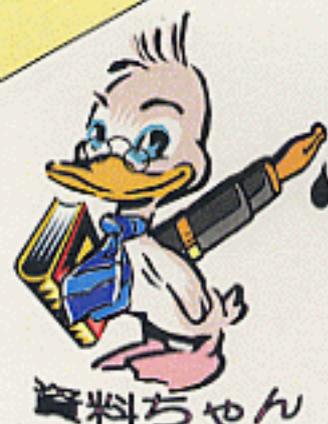
2003年2月27日発行

**震災資料の研修会・研究会が人と防災未来センターで開催されました！**



2003年2月19日 地域連携研究会の様子

震災資料をどのように保存し、活用していくのかについて2つの研修会、研究会が人と防災未来センターを会場として開催されました。被災地内外からも、当センターでの震災資料の収集整理・活用の現状について関心が高いことが改めてうかがわれました。詳しくは次のページをご覧ください。



## 一次資料（原資料）の収集経緯

平成7年3月	阪神大震災地元NGO救援連絡会議に「震災・活動記録室」を設置。
5月	神戸大学附属図書館「震災文庫」が本格的に活動を開始。 県立図書館、市立図書館でも一次資料を含む収集を開始。 自治体、図書館、史料保存団体の有志、歴史研究者などによる相互協力活動開始（ライブラリアンネット）
10月	(財)21世紀ひようご創造協会 兵庫県の委託を受けて震災資料収集事業を開始。
平成8年12月	非常勤嘱託（3名）を雇用。旧避難所等を中心に調査。
平成10年4月	(財)阪神・淡路大震災記念協会 収集事業を引き継ぐ。4つの事業のひとつとして「阪神・淡路大震災に係る既存情報の収集整理・保存」を位置づける。仮設住宅、ボランティアグループを中心に調査。 「震災資料の分類・公開基準研究会」設立（～12年度末）。
平成11年4月	「公開基準検討部会」設立（～平成12年度末）。
平成12年6月	「緊急地域雇用特別交付金事業」による大規模調査（～平成13年度末）。
平成13年4月	「震災資料の保存・利用、及び活用方策研究会」設立（～平成13年度末）。 「検討部会」設立（～平成13年度末）。
平成14年4月	阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」資料室に事業を引き継ぐ。

## 震災資料の研修会・研究会

### レポート その1 「資料保存研修会」

2003年1月30日

主催：全史料協（全国歴史資料保存利用機関連絡協議会）の保存委員会・近畿部会

#### テーマ：「災害復興と資料保存」

資料の収集と保存については、文書館や資料館の共通したテーマです。全国の文書館・資料館からの参加があり、当センターの展示・収蔵庫の見学、震災資料調査と保存についての報告、意見交換がなされました。

報告は、奥村弘氏（神戸大学助教授）「災害と資料—保存・公開—」、佐々木和子氏（関西大学講師）「兵庫県における震災資料調査事業と今後の課題」、当センター資料室「人と防災未来センターにおける震災資料の保存と活用」の3報告がなされました。

意見交換では、具体的な資料データベースの方法に関する質問、各機関での情報の共有およびネットワーク化の提案などについて議論されました。

### レポート その2 「震災資料の保存・活用に関する地域連携研究会」

2003年2月19日

主催：神戸大学文学部地域連携センター（代表：奥村弘）

#### テーマ：「人と防災未来センター資料室における震災資料の保存・活用の現状」

被災地において、震災関連資料を収集・保存している諸機関と情報交換を行い、問題・関心を共有することを目的に研究会が開催されました。当日は、兵庫県内の図書や資料に関わる機関が多数参加されました。

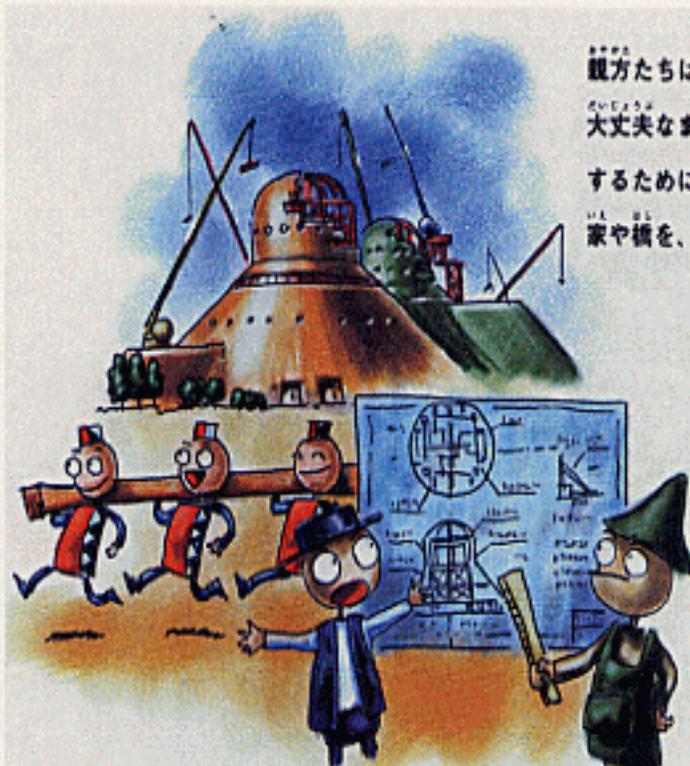
神戸大学附属図書館震災文庫、兵庫県立図書館、兵庫県公館、西宮市史編集室、伊丹市立博物館、当センター資料室が、それぞれの機関の現状や問題点についての報告を行いました。収集した資料の保存スペースや資料を整理するためのスタッフの確保などが共通の課題として明らかになりました。また、資料をより活用しやすくするためには、調査記録を重視しながら、記述目録を作成していくべきであること、多様な研究者が連携をとることが重要であること、などが確認されました。

なお、この研究会は、神戸大学文学部地域連携センターによる「歴史文化に基礎をおいた地域社会の形成のための自治体等との連携事業」の一環としておこなわれました。



資料室では、今後  
も他機関や多くの専門家  
の方々と課題や情報を共  
有しながら、皆さんから  
おあずかりした多くの資  
料の保存と活用について  
取り組んで行きたいと考  
えています。

親方たちは「まもの」がきても  
大丈夫なまちに  
するために  
家や橋を、強くしました。



## 今月のお勧め図書

### 「ひかりのまちのまもの」

企画・構成 林春男

(防災科学技術研究所理化学研究所地震防災フロンティア研究センター)

(資料室 図書番号 3-A 23230)

あらすじ 「ひかりのまち」と呼ばれる美しいまちに突然あらわれた「まもの」。

木や家はなぎ倒され、まちの人たちは大慌てです。「まもの」を捕まえようとしたり、別のまちに逃げようとしたり。

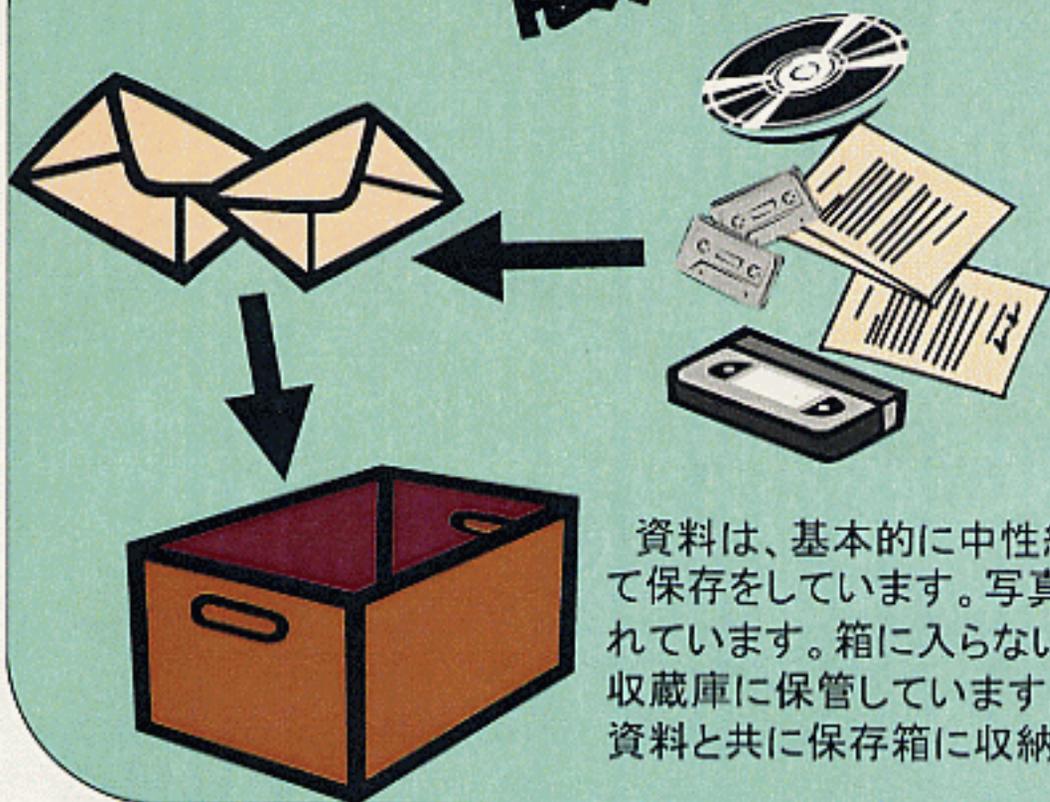
でも、まちの人たちは気づきます。みんなが力をあわせて、「まもの」があらわれても平気な強いまちにしようと。



まちの人たちは、いいました。  
もし、まちがこわされても、ちゃんと生活できるように、「氷」「食べ物」「薬」「あかり」を備えよう!

「まもの」=地震による災害を防ぐことの大切さを小さな子供にも考えられるように作られた絵本です。お子さんと一緒にぜひご覧下さい。

## 震災資料保存方法♪



人と防災未来センターで保管している16万点以上の現物資料は、それぞれの資料形態にあった保存方法で、保存しています。

資料は、基本的に中性紙の保存用封筒に入れ、中性紙の保存箱に入れて保存をしています。写真資料は1枚ずつ薄葉紙に包んだ後、保存袋に入れています。箱に入らない大きさのものは、薄葉紙にラベルを張ったりして収蔵庫に保管しています。映像・音声資料は、デジタル化をして、もともとの資料と共に保存箱に収納しています。